

石、三年十二月百五十石を増し、延享二年大
小將組、三年御馬廻組に轉じた。兵太夫寛延
元年十月七日大規模朝元の事件に座して篠島織
部に御預となり、次いで奥村主水に預替へら
れ、二年六月七日その所で病死した。時に三
十四歳。

ソノダマサトモ 園田政朝 通稱兵次郎・
伊織・市兵衛。元文二年父兵次右衛門の遺知
百石を襲ぎ、前田重靖の御小將格となり、寶
曆三年五十石を加へ、後御馬廻・御近習番か
ら次第に昇進して御先筒頭に至り、天明六年
百石を加へ、文化二年歿した。

ソノダリサエモン 園田理左衛門 御持筒
足輕で後に小頭に進み、享保十二年御小人頭
となり、元文元年八月御歩小頭並として新知
百石を受け、同年九月十九日歿した。

ソノトモシ 其燈 一冊。金澤の俳人舍柴
の著。京橋屋治兵衛板。加賀・能登の俳句を
多く集めたもの。序文に寛延戊辰のとし鳥道
下入道舍柴とあり、跋は桑門大睡。舍柴はこ
の年七十二歳であつた。本書には刊記が無
い。

ソノノキク 園の菊 活字本一冊。菊園田
中躬之とその嗣子猛之との作歌を集めたも
の。明治二十年九月高島米護の序があり、藤
田容齋は漢文を以て父子の傳を書いて居る。

ソノフルサダ 園古定 通稱孫左衛門。藩
臣山崎氏に仕へて居合の術に達し、天明戊申
九月八日六十二歳を以て歿した。

故に此下流を虹見川と呼べり。』といへる虹の
瀧も亦是である。
ソバゴシヨウ 側小將 御側小將は藩侯側
近に在つて用務を足す年少の徒で、藩の末期
に在つた。御側小將から奥小將に轉じてゐる
から、奥小將即ち昔の小々將とは別種と見え
る。

ソバゴシヨウバンガシラ 側小將番頭 御
側小將には組頭がなく、御番頭があるのみで
ある。嘉永七年(安政元)二月廿四日新たに二
人を命ぜられた。役料百五十石。
ソバゴシヨウヨコメ 側小將横目 文久三
年七月廿一日新規に御側小將御横目兩人を命
ぜられた。役料百石。

ソバシミツワタリ 蛸清水渡 白山尾添口
の登路で、天池室戸から東行して濱に添ふ山
路をいふ。長さ一軒。
ソハマ 祖濱 鹿島郡奥原保に屬する部落。
能登名跡志に『祖濱も公領也。庄屋は室屋氏
とて、よき百姓也。』とある。

ソフウ 素風 河北郡秋濱眞宗東派道安寺
の住持で、その名を聞説といひ、俳諧を河合
見風に學んで素風と號した。文政十一年十一
月廿四日八十六歳を以て歿。

ソフガハ 添川 椋部考古遊記に、織田眞
記天正五年八月八日柴田勝家の加賀に入つた
條に、添川を河名となし、添川・手取川を渡
ると書き、富田景周は添川を湊川となし、古
へ手取川二派あつて、南を湊川、北を手取川
というたとする類は、皆誤であると論じて居
る。これは添川を相河村であるとするとするもので
あるが、矢張り湊川とする説を取るべきであ
らう。↓テドリガハ 手取川。

ソブク 會福 鳳至郡南北郷に屬する部落。
能登名跡志に『家數六十軒許。此村の後に當
つて高山見ゆるは、富木の鉦打山也。此所よ
りは近し。東平、此村の領也。』とある。
ソブクガハ 會福川 鳳至郡河内領山から
流出し、會福領で海に入る。水源から八軒許。
ソヘダトクベエ 副田徳兵衛 初め權六。
御歩に任じ、元祿十二年源光院御附頭を勤め、
新知百石を受け、寶永六年歿。子孫相繼いで
藩に仕へる。

ソマタ 會又 鳳至郡上町野郷に屬する部
落。
ソマタヤマ 會又山 鳳至郡會又の部落か
ら西方に當る山。高さ二五五米。地質第三紀
層。
ソミヨウ 祖命 ↓テンセンソミヨウ 天
先祖命。

ソメキテイ 染井邸 江沼にあつた加賀藩
邸。その沿革は詳かでないが、享保九年十月
十八日前田吉徳の生母預玄院が染井の新邸に
移徙したことが見える。
ソメエ 染繪 加賀で産した染繪が、前田
綱紀の頃既に大に發達してゐたことは『享保
伍庚子六月十五日於加州御門前町染所茂平』
の款識ある紫式部讀源語圖の染繪懸幅が、現
に東京帝室博物館に藏せられることでもわか
る。茂平は太郎田屋四代で、延享四年十一月
に歿してゐる。これらの染繪を加賀友禪と稱
することは最近から初つたので、たとひその
工程が京の友禪染と同じにしても、さうし
た名稱は藩政の頃になかつた。

ソモン 祖文 ↓ジヨウソモン 字岡祖文。
ソヤマ 會山 鳳至郡山田郷に屬する部落。
承久三年注進の能登園田數目録鹿島郡のうち
に大屋庄内穴水保・會山開發・三井保などがあ
る。されば當時是等の地方は皆鹿島郡に屬し
てゐたと見える。
ソヤマタウゲ 會山峠 鳳至郡本木から會
山の部落に出る間の峠。高さ一三八米。
ソヤマダニ 會山谷 鹿島郡春木の内の小
字。
ソユウ 素有 ↓ダイネンソユウ 大年素
有。
ソユウ 祖祐 ↓テンヨウソユウ 天騰祖
祐。

ソラ 會良 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。
會良の名は文應二年の諸橋六郷田數目録に見
える。能登名跡志には、『甲村を廻れば會良・
鹿波・岩車とて磯傳三ヶ村あり。皆公領也。會
良村近し。坂東とて古き百姓あり。』と記す
る。
ソラグマ 空熊 鳳至郡大屋庄に屬する部
落。明治中に至り吠木を併合した。
ソラコウ 會長港 鳳至郡に在る。南方七
尾北灣の大口海峽に面し、能登島の祖母浦
に對し、東に松崎、西に加賀田崎があつて、
小船の風波を避くるに便がよい。東西一〇〇
米、南北二〇〇米、水深三米。
ソラバヤシ 空林 珠洲郡九里川尻の内の
小字。

ソラバンドウ 會長坂東 鳳至郡會良の舊
家坂東氏を、小伊勢坂東・長井坂東に對して
會長坂東といふ。その祖先は、石動山院内多
根の枝村ころさから移つたといふ。坂東は番
頭で、村の小吏を勤めた家であらう。しかし
能登名跡志には、『坂東とて古き百姓あり。利

利